

令和4年度 全国学力・学習状況調査

長野市の結果分析と 学力向上に向けて



第三期しなのきプラン 全体イメージ図

令和4年11月

長野市教育委員会

目 次

I	調査概要	1
1	調査内容	
2	調査対象	
II	教科・調査別結果の概要	
1	教科に関する調査の結果概要	1
	(1) 小学校	
	(2) 中学校	
2	質問紙調査の結果概要	4
	(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の状況	
	(2) 国語の現状	
	(3) 算数・数学の現状	
	(4) 理科の現状	
3	令和3年度・令和4年度の授業改善のポイント	8
4	これまでの主な成果と今後の方向	9
III	本調査から見た「第三期しなのきプラン」の現状	10
1	知・徳・体を一体的に育成	
2	教職員の力量向上	
3	安全安心な学校づくりの推進	
4	GIGAスクール構想の推進	
5	学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担	
6	「第三期しなのきプラン」に照らした具体的な今後の方向	14
IV	「協働」を通じた 「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」に向けて	14

I 調査概要

1 調査内容

- (1) 教科に関する調査
 - ・令和4年4月19日（火）実施
 - ・小学校：国語、算数、理科（理科は3年に一度程度の実施）
 - ・中学校：国語、数学、理科（理科は3年に一度程度の実施）
- (2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査



2 調査対象

市立小学校6年生 54校 2,793人
 市立中学校3年生 25校 2,734人
 ※ 調査人数は、国語の実施人数を記載しています。

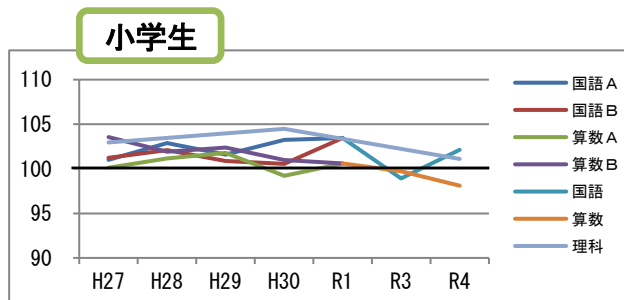
II 教科・調査別結果の概要

1 教科に関する調査の結果概要

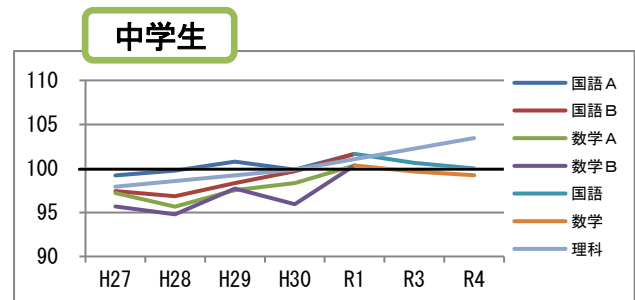
	小学生			本市及び長野県、全国の正答率(%)			中学生		
	長野市	長野県	全国	長野市	長野県	全国	長野市	長野県	全国
国語	67	66	65.6	69	68	69.0	69	68	69.0
算数	62	62	63.2	51	51	51.4	51	51	51.4
理科	64	63	63.3	51	50	49.3	51	50	49.3

全国の正答率を100とした場合の、本市の結果の推移（国語・算数・数学・理科）

※令和元年度から「知識A」と「活用B」を一体的に問う問題形式で実施。



国語は全国の正答率を上回り、算数は全国の正答率を下回りました。理科は下降したものの、調査開始以降、全国の正答率を上回っています。

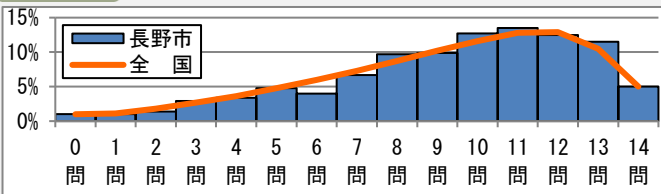


国語、数学は、全国の正答率と同程度となっています。理科は、調査開始以降、向上傾向となっています。

(1) 小学校

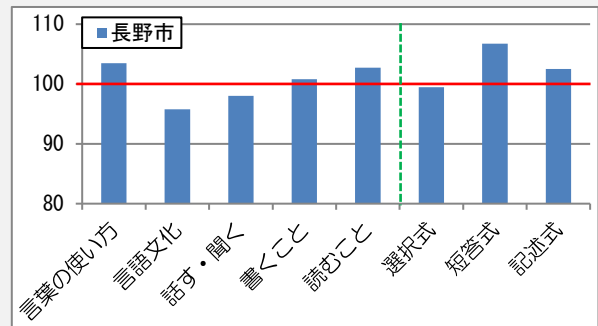
国語

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~5問正解) の児童の割合
全国 15.0% 長野市 14.5%
- 正答率 80%以上 (12~14問正解) の児童の割合
全国 28.4% 長野市 29.0%

【領域・問題形式別グラフ】 全国：100

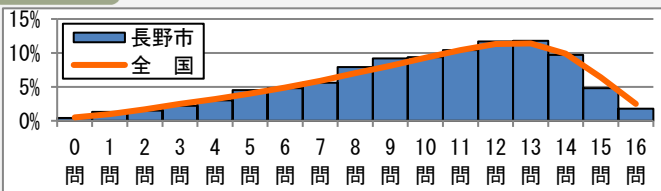


【領域・問題形式別の結果】

- ◇「言葉の特徴や使い方に関する項目」、「読むこと」の領域が、全国の正答率を上回っています。
- ◇問題形式別では、「短答式」、「記述式」が全国の正答率を上回り、昨年度から向上しています。

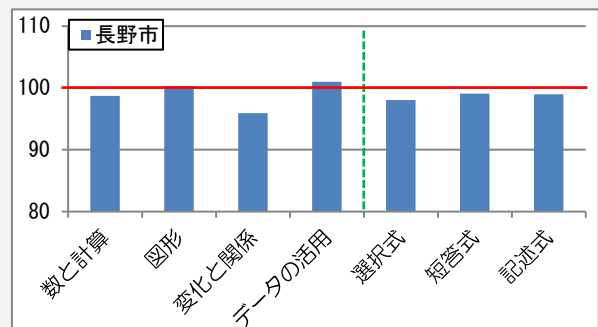
算数

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~6問正解) の児童の割合
全国 17.8% 長野市 17.7%
- 正答率 80%以上 (13~16問正解) の児童の割合は、
全国 30.2% 長野市 28.1%

【領域・問題形式別グラフ】 全国：100

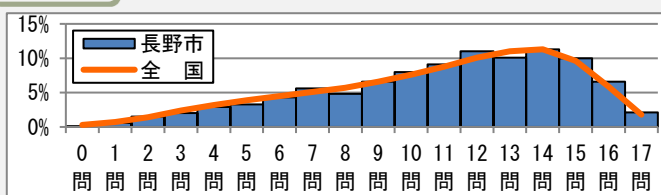


【領域・問題形式別の結果】

- ◇「変化と関係」の領域で、全国の正答率を下回っています。
- ◇問題形式別は、全体的に全国と同程度ですが、「記述式」は、昨年度から向上しています。

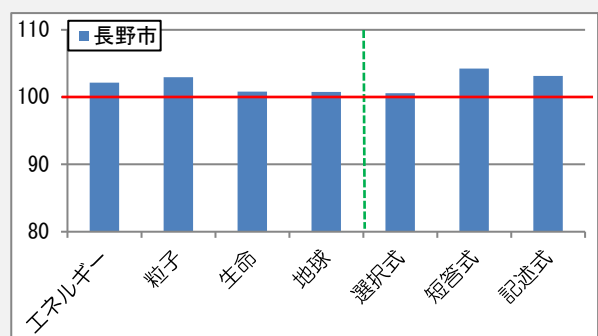
理科

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~6問正解) の児童の割合
全国 16.4% 長野市 14.7%
- 正答率 80%以上 (14~17問正解) の児童の割合は、
全国 28.6% 長野市 30.0%

【領域・問題形式別グラフ】 全国：100



【領域・問題形式別の結果】

- ◇すべての領域において、全国と同程度、または、全国の正答率を上回っています。
- ◇問題形式別では、「短答式」、「記述式」が全国の正答率を上回っており、前回調査から向上しています。

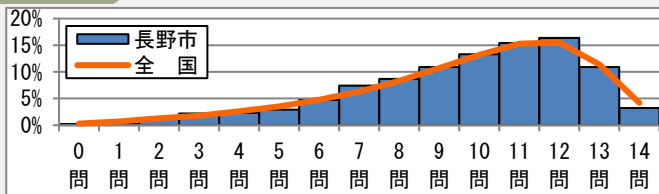
小学校の傾向から

- どの教科も、正答数 40%以下の児童の割合は全国より低く、算数では、正答数 80%以上の児童の割合が全国より低くなっています。引き続き、正答数 40%以下の児童への丁寧な指導とともに、正答率が 80%以上の児童の割合を高める工夫を大切にしていきます。
- 問題形式別では、どの教科も「記述式」で全国と同程度、または、全国を上回っており、前回調査からの向上が見られます。引き続き、根拠を明確にして書いたり、まとめたりする活動を大切にしていきます。

(2) 中学校

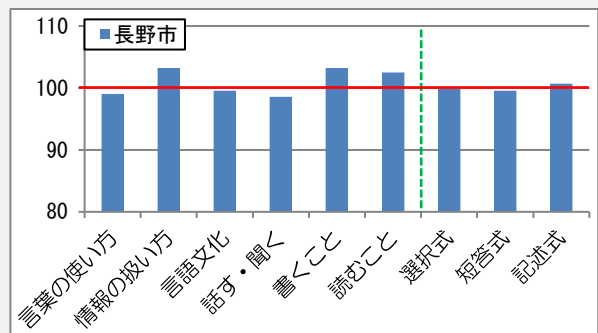
国語

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~5問正解) の生徒の割合
全国 10.2% 長野市 9.2%
- 正答率 80%以上 (12~14問正解) の生徒の割合
全国 31.1% 長野市 30.5%

【領域・問題形式別グラフ】 全国：100

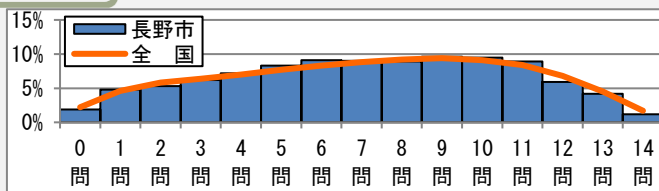


【領域・問題形式別の結果】

- ◇全国と同程度ですが、「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」で、全国の正答率を上回っています。
- ◇問題形式別では、すべての形式において、全国の正答率と同程度です。

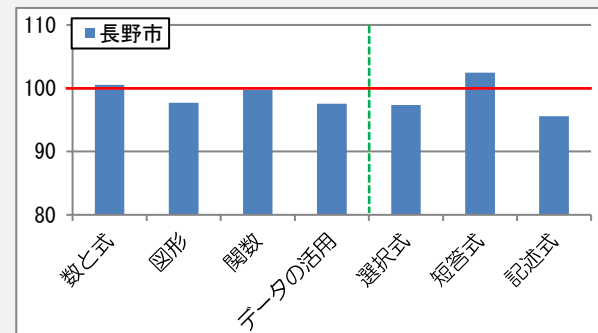
数学

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~5問正解) の生徒の割合
全国 33.7% 長野市 33.7%
- 正答率 80%以上 (12~14問正解) の生徒の割合は、
全国 13.0% 長野市 11.3%

【領域・問題形式別グラフ】 全国：100

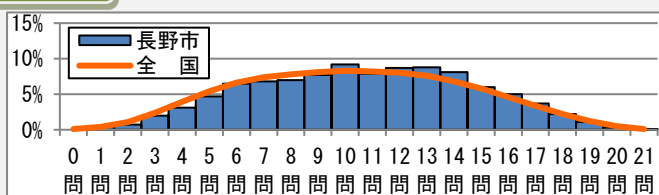


【領域・問題形式別の結果】

- ◇「図形」「データの活用」の領域で全国の正答率を下回っています。
- ◇問題形式別では、「短答式」で全国の正答率を上回っています。

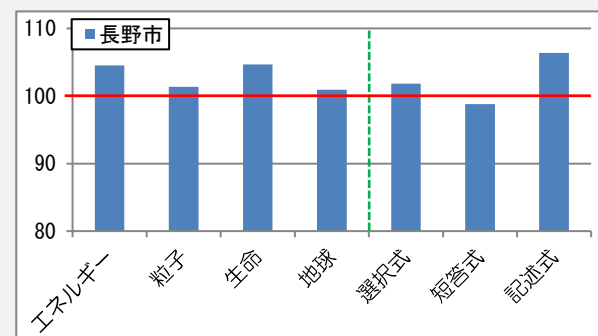
理科

【正答数分布】



- 正答率 40%以下 (0~8問正解) の生徒の割合
全国 35.1% 長野市 31.2%
- 正答率 80%以上 (17~21問正解) の生徒の割合は、
全国 7.4% 長野市 7.4%

【領域・問題形式別グラフ】 全国：100



【領域・問題形式別の結果】

- ◇すべての領域において、全国の正答率を上回っています。
- ◇問題形式別では、「記述式」が全国の正答率を大きく上回っています。

中学校の傾向から

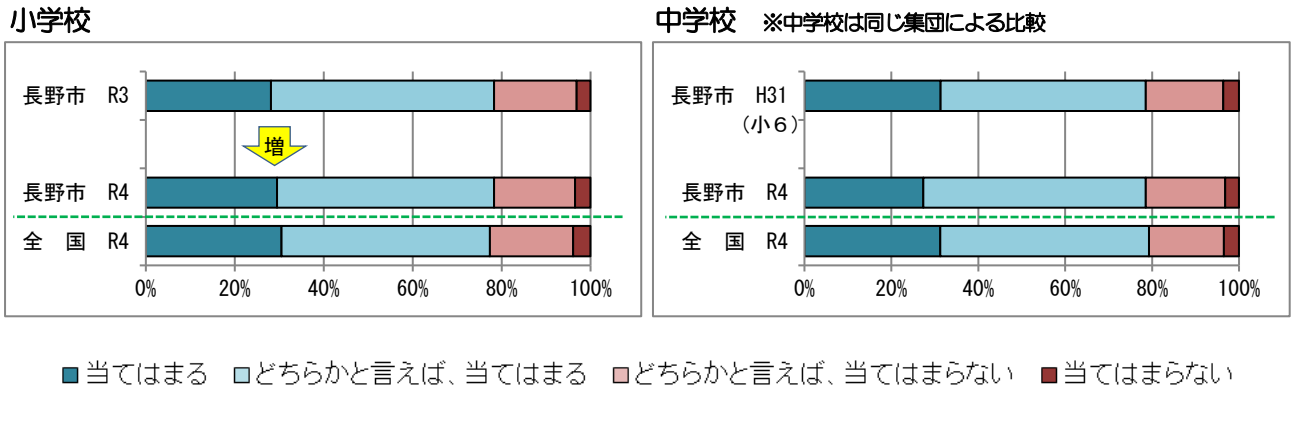
○国語、理科では、正答率が40%以下の生徒の割合が全国より低く、国語、数学では、正答率が80%以上の生徒の割合が全国より低くなっています。各教科、**正答率が80%以上の生徒の割合を高める工夫を大切にしていきます。**

○問題形式別では、数学の「記述式」が全国の正答率を下回っていますが、昨年度から向上が見られるため、引き続き、**事実・事柄の説明、理由や方法を説明する場面を位置付けた授業づくりを大切にしていきます。**

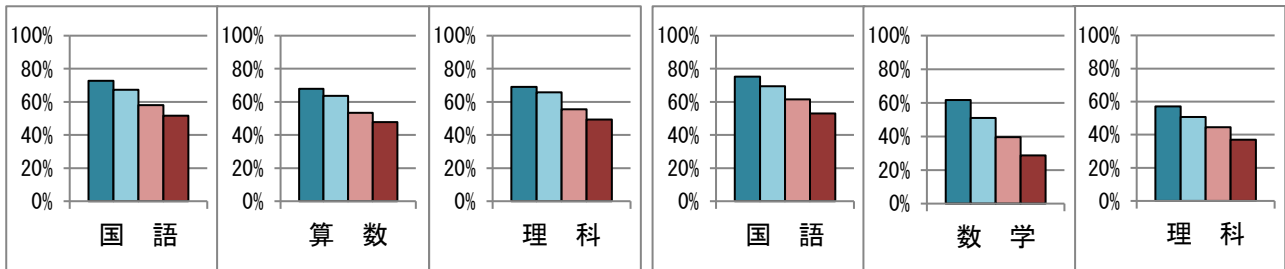
2 質問紙調査の結果概要

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の状況（児童生徒質問紙調査から）

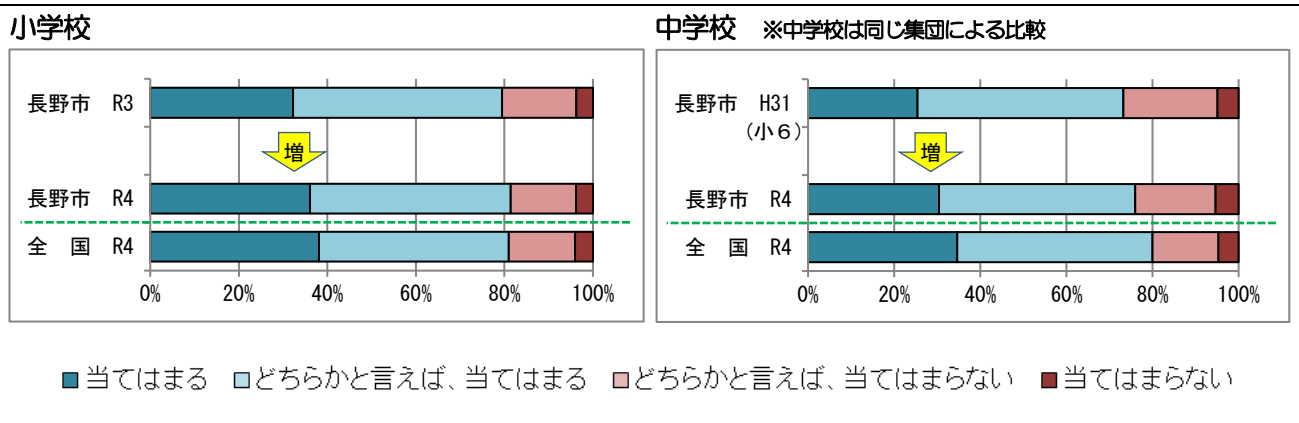
① 5年生（中学校1、2年生）のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか【児童生徒質問紙（39）】



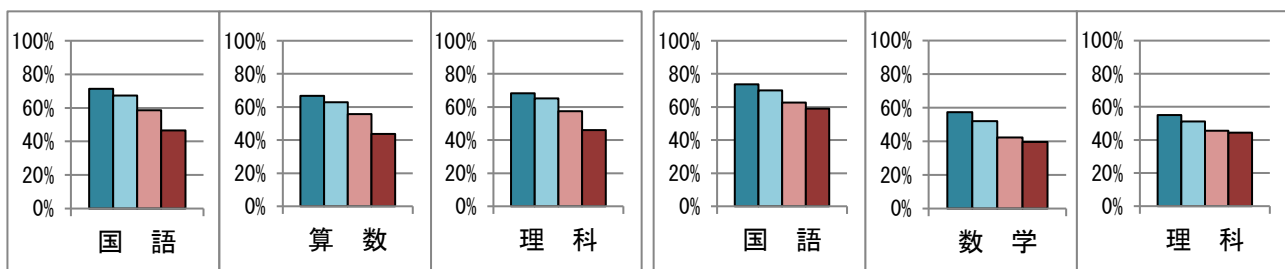
上記質問に対する回答別の平均正答率との関係（クロス集計）



② 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか【児童生徒質問紙（43）】

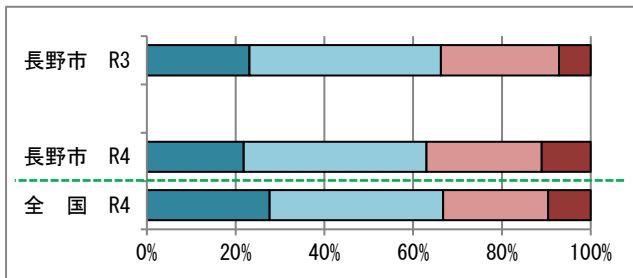


上記質問に対する回答別の平均正答率との関係（クロス集計）

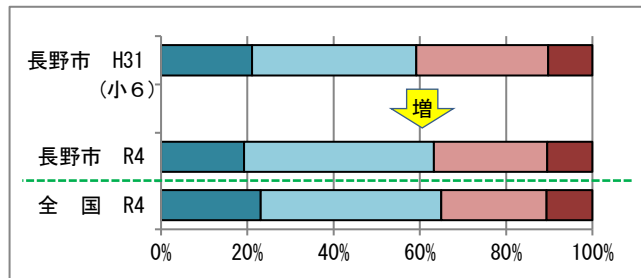


③ 5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか【児童生徒質問紙（38）】

小学校

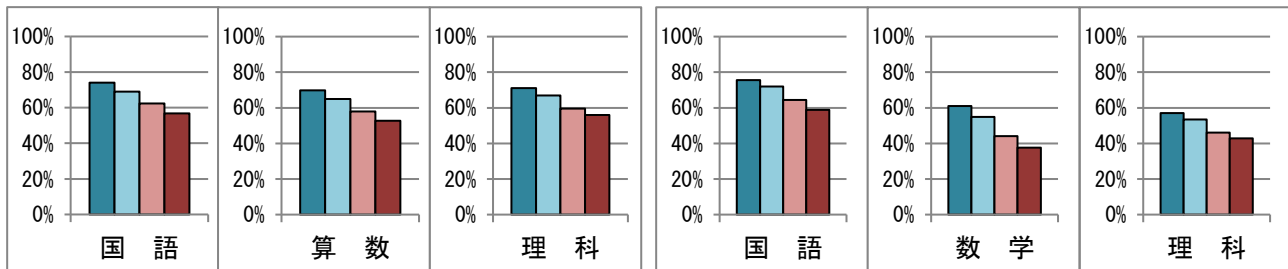


中学校 ※中学校は同じ集団による比較



■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

上記質問に対する回答別の平均正答率との関係（クロス集計）



○全体的に見ると、肯定的回答（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）の割合が、増加傾向にあります。また、クロス集計から、質問紙調査で肯定的な回答をした児童生徒は、学力調査（国語、算数・数学、理科）の正答率が高いことが分かります。このことから、「児童生徒が問題を見だし、主体的に解決をする場面」、「自分の考えやまとめたことを、友と伝え合う場面」、「自分の考えを工夫しながらまとめる場面」について、より充実を図り、授業改善を進めていくことが大切です。

(2) 国語の現状

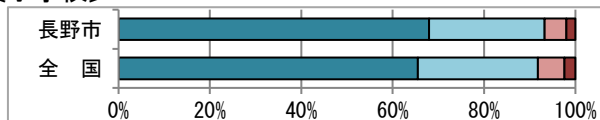
① 児童生徒質問紙調査の状況

肯定的回答が比較的高い質問

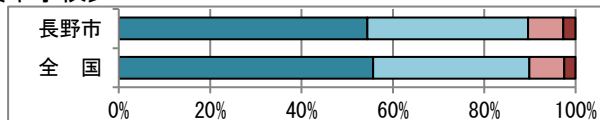
■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

(52) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか

[小学校]



[中学校]

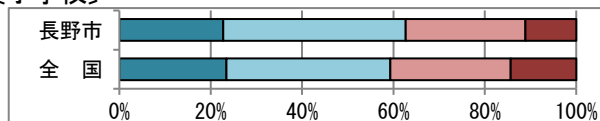


肯定的回答が比較的低い質問

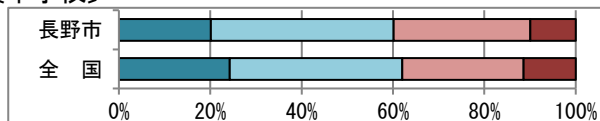
■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

(49) 国語の授業は好きですか

[小学校]



[中学校]



② 指導改善の方向

国語の授業で学習した事が、社会に出たときに役に立つと思っている児童生徒の割合は、90%前後であるのに対し、国語の授業が好きな児童生徒の割合は、60%程度となっています。単元の導入で、「この単元では何をやるのか」という単元のゴールとなる言語活動について話し合っただけで、児童生徒の興味・関心を高めながら展開を進めていくことが必要です。

(3) 算数・数学の現状

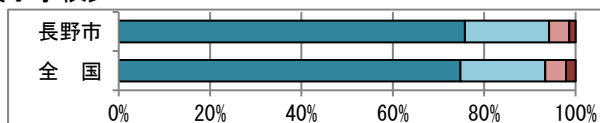
① 児童生徒質問紙調査の状況

肯定的回答が比較的高い質問

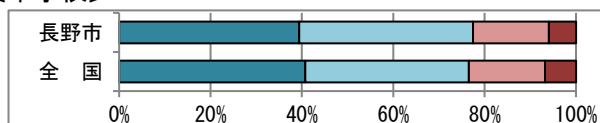
■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

(56) 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

[小学校]



[中学校]

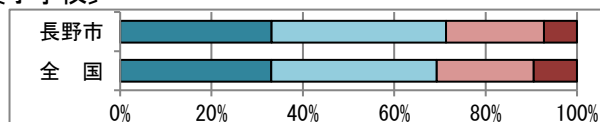


肯定的回答が比較的低い質問

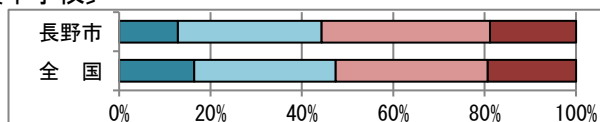
■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる ■ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

(57) 算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか

[小学校]



[中学校]



③ 指導改善の方向

算数・数学の授業で学習した事が、社会に出たときに役に立つと感じている児童生徒の割合は、小学校では90%を上回り、中学校では80%程度であるのに対し、学んだことを、普段の生活の中で活用できないか考えている児童生徒の割合が低い傾向にあります。日常生活や社会の事象を数理的に捉えて問題を見だし、児童生徒が選択したり判断したりする場面を仕組んでいくことが必要です。

(4) 理科の現状

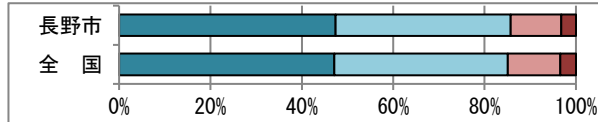
① 児童生徒質問紙調査の状況

肯定的回答が比較的高い質問

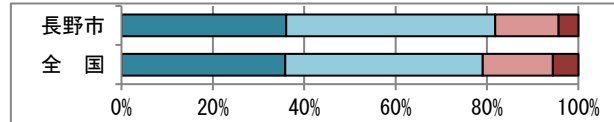
■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる ▨ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

(68) 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか

[小学校]



[中学校]

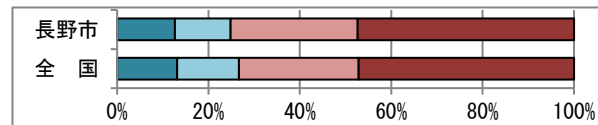


肯定的回答が比較的低い質問

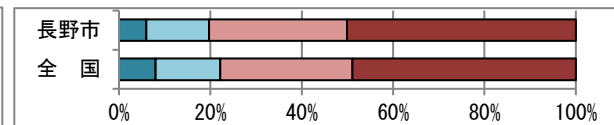
■ 当てはまる □ どちらかと言えば、当てはまる ▨ どちらかと言えば、当てはまらない ■ 当てはまらない

(66) 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いませんか

[小学校]



[中学校]



④ 指導改善の方向

観察や実験の結果を基に考察を行っている児童生徒の割合が80%を上回っており、各校において、観察や実験を充実させながら授業が展開されていることが伺えます。一方で、将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思っている児童生徒の割合が低い傾向にあります。児童生徒が、予想や仮説を設定しながら検証計画を立案するなど、探究力の向上を図り、科学の楽しさを感じる児童生徒を育成していくことが必要です。

3 令和3年度・令和4年度の授業改善のポイント

○令和3年度の授業改善のポイント

- 目的に応じた情報収集と解決方法を選択する
- 資料や情報を関連付けて考える
- 学んだことを日常的に活用する
- 自分の考えをまとめ、友との関わりで練り上げ、発信する

その結果

質問紙調査の「主体的・対話的で深い学び」に係る肯定的回答の向上
肯定的回答をした児童生徒の平均正答率が高い傾向にある

○令和4年度の授業改善のポイント

- 場面や日常の中から、問題や課題を見いだす
- 複数の情報を見比べたり結び付けたりしながら読み取る
- 学んだことを日常的に活用する

上記を授業改善の視点とし、指導主事による学校訪問や各種研修、各校における好事例を共有しながら授業改善を進めていきます。



4 これまでの主な成果と今後の方向

(1) これまでの主な成果

○中学校が全体的に向上

考えられる要因 ⇒ しなのきプランの策定 (H27~)

①長野市が大切にしたい主な資質・能力として、しなのきプラン策定当初に掲げた、「未来力」、「自律力」、「絆力」、「実践力」※¹を学力の根として、全小中学校で認識を共有し、授業改善を図ってきたこと

②正答率 40%以下の生徒に重点的をおいて指導してきたこと

(2) 今後の方向

生きる力を育成する学校づくりの推進

学校は、ひとづくりの場です。予測困難な時代の中、これまで取り組んできた「基礎学力の定着」や「子どもたちの実態や地域の特色を生かした学習」を更に充実させることで「自学自習の資質能力」の伸張を図ります。また、創造性や豊かな感性、たくましく生きるための健康・体力を育む、主体的で対話的な深い学びを通して、全ての子どもたちの知・徳・体を一体的にバランスよく育み、生きる力の育成を目指します。

<第三次長野市教育振興基本計画より>

そのために

①自学自習の資質能力の伸張

・ 探究的な学習の充実

②正答率 40%以下の児童生徒への丁寧な指導と、正答率 80%以上の児童生徒の割合を高めるための充実した指導

③今の学習を将来の生活に活用する力の育成

・ 理科教育、理科教育センターの充実

※1：しなのきプラン 29 において、長野市が大切にしたい主な資質・能力

- ・ 未来力…将来の夢や目標と見通しを持ち、努力を継続できる力
- ・ 自律力…規範意識を持ち、自己をコントロールする力
- ・ 絆力…他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力
- ・ 実践力…獲得した知識・技能及び思考力・判断力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、行動する力

Ⅲ 本調査から見た「第三期しなのきプラン」の現状

長野市では、平成27年4月に、「しなのきプラン29」を9か年計画の第一期の3カ年計画として策定しました。そして、令和3年4月から、「第三期しなのきプラン」を実施しています。

第三期しなのきプラン

長野市教育の基本理念である「明日を拓く豊かな人間性の実現」に向け、教職員の力量の向上を教育活動の基盤と考え、学校、地域、家庭、事業所等の協働と分担の中で、「知・徳・体」を一体的に育成し、すべての子どもたちに「自学自習の資質能力」が育まれるための支援を行います。

図 自学自習の資質能力

【自学自習の願う姿】

- 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けようとする子ども
- 生活体験や興味・関心から課題を見付け、自分なりに方法を選択し、他者と協働しながら、見通しをもって解決に取り組む子ども
- 自分の生活体験や学習の状況を振り返り、新たな見通しを立てる、新たなやり方を見出す、自ら学び直しや発展的な学習をするなど生活や学習を調整し、自己肯定感・自己有用感を実感していく子ども

「自学自習の資質能力」は、左図のように学齢期をとおして、一人一人の子どもの中に見だし・支え・育みたい姿を、「自学自習」の姿を中核に据えて整理したものです。

ここでは、質問紙調査を基に、「第三期しなのきプラン」の現状を分析します。

- 取り上げた質問項目は、「第三期しなのきプラン」の評価指標としているものか、評価する上で有効と思われるものを掲載しました。
- 表中の値は、全国を100としたときの、長野市の肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計）の数値を示しています。（ ）内の数値は令和3年度の結果。
- 令和3年度と比較して3ポイント以上の差があったものを↑、↓として表しています。
- 全国比100以上は、ピンク の塗りつぶしとして表しています。

1 知・徳・体を一体的に育成

児童生徒質問紙から、上記の「自学自習の資質能力」に関わるものを抽出して集計しました。

番号		質問事項	小学校	中学校
(7)	自学自習	自分には、よいところがあると思いますか	100 (102)	101↑ (96)
(20)		家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	104↑ (101)	102↑ (93)
(39)		授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	101 (100)	99↓ (102)
(44)		学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	103 (102)	99↑ (95)
(40)	思考・判断・表現 コミュニケーション	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか	105↑ (101)	94↑ (90)
(17)		自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	101↑ (97)	94 (95)
(43)		学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	100 (100)	94 (95)
(48)		道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	101↓ (104)	98↑ (95)
(13)	規範意識・ 社会生活と の関わり	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	100 (100)	100 (100)
(12)		人が困っているときは、進んで助けていますか	100 (101)	100 (99)
(30)		地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか	111 (111)	117↑ (110)
(9)	自主・自律・自立	将来の夢や目標を持っていますか	100 (100)	99 (100)
(11)		難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	100 (101)	101 (101)
(4)		携帯電話・スマートフォン・コンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	100↓ (104)	100 (102)
(5)	健康な心と体	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータ・携帯電話・スマートフォンも含む）をしますか（2時間未満の割合）	119 (120)	119↓ (126)
(1)		朝食を毎日食べていますか	102 (101)	103 (103)
(2)		毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	104 (103)	102 (102)
(18)	協働性 協働性	友達と協力するのは楽しいと思いますか	99 (100)	100 (99)
(46)		あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	97↑ (93)	94 (93)

○「自学自習」に係る質問より

学力調査での成果が大きい学校では、学習計画を立てるシートを児童生徒とともに作成したり、学習計画を立てる時間を確保したりしています。児童生徒が、自ら見通しをもって学習に取り組むことができるような指導を重ねていくことが成果に繋がっていると考えます。

○「コミュニケーション」に係る質問より

多様な考えに触れたり、様々な立場で考えたりすることができるように、対話や話し合いの機会を多く設定し、予想や過程、結論を共有するとともに、ICT機器を効果的に活用しながら、より多くの考えや意見を共有し、対話や話し合いのきっかけをつくることが必要だと考えます。

○「社会生活との関わり」に係る質問より

自然や社会、人とのつながりを見いだしながら探究する総合的な学習の時間の成果が表れているものと考えられます。

○「自主・自律・自立」に係る質問より

予測困難な社会であることや、職業が多様化していることなどにより、現時点で自分の将来像を明確にしづらくなっているのかもしれませんが。そのような中、よりよい選択ができるように、多様な「人・もの・こと」とのかかわりや体験活動の機会をより多く設定していくことが必要だと考えます。

2 教職員の力量向上

学校質問紙から教職員の「カリキュラム・マネジメント力の伸張」に関わるものを集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
(16)	指導計画作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標達成に必要な教育内容を組織的に配列している	104 (102)	100 ↓ (110)
(18)	指導計画作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外的資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている	102 (100)	96 ↓ (109)
(21)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	104 (120)	120 (116)

○新型コロナウイルス感染症の影響等により、地域等の外的資源の活用や対面での研修がしづらい状況がありますが、引き続き、職員研修や指導主事による学校訪問支援、教育センター研修講座等の充実を図り、教職員の力量の向上を目指していきます。

○各校の良い実践事例を共有しながら、充実した指導計画の作成ができるように努めてきます。

3 安全安心な学校づくりの推進

児童生徒質問紙と学校質問紙から、「いじめ・不登校の未然防止・早期対応」に関わるものを抽出して集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
(48) 児童生徒	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	101 ↓ (104)	98 ↑ (95)
(11) 学校	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、児童生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか	109	105

○自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動を充実させ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていきます。

○いじめ・不登校の未然防止、早期発見、早期対応のために、外部支援者との連携を充実させていきます。

4 GIGAスクール構想の推進

児童生徒質問紙と学校質問紙から「ICT機器を活用した学習状況やICT環境の整備」に関わるものを集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
(36) 児童生徒	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか（肯定的な回答）	99 (98)	97 (98)
小(59) 中(57) 学校	前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか（週1回以上を集計）	98	96
小(57) 中(55) 学校	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	104↑ (94)	106 (107)
(14) 学校	ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいますか	101	102

- 本調査では、令和3年度の状況を回答しています。ネット環境の改善に伴い、引き続き、小・中学校ともに、授業においてICT機器の活用を推進していきます。
- ICT機器を使用した場面については、小・中学校ともに、「調べる場面」が多く、次いで「学級の友達と意見を交換する場面」となっています。今後、効果的な活用が期待できる、授業での自分の学習成果を発表する場面で使用したり、児童生徒自身が必要感をもって活用できる場面を設定したりすることを大切にしていきます。

5 学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担

学校質問紙から「学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担」に関わるものを集計しました。

番号	質問事項	小学校	中学校
小(69) 中(67)	前年度までに、近隣等の小学校（中学校）と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	86↓ (97)	109 (111)
小(72) 中(70)	職場見学や職場体験活動を行っていますか ※「行っている」回答を集計	157↑ (126)	263↑ (103)
小(73) 中(71)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	108↑ (99)	110↓ (115)
小(74) 中(72)	保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	106↑ (103)	113↑ (98)
小(75) 中(73)	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、小(74)中(72)の質問にあるような保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	133↑ (126)	119↓ (126)
小(76) 中(74)	小(74)中(72)の質問にあるような保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	107 (106)	106↓ (111)

- 肯定的な回答が全国や昨年を上回る質問が多くあり、学校において、有効な取組となっています。
- コミュニティスクールの取組が工夫して行われていたものと考えられます。コロナ禍においても、校舎の清掃や消毒等に協力いただいた学校数は増加傾向にあります。引き続き、学校、保護者、地域住民等が子どもの育ちについて共に話し合い、それぞれの役割を明らかにしながら協働・分担していきます。

6 「第三期しなのきプラン」に照らした具体的な今後の方向

重点取組

知・徳・体を一体的に育成

- 全国学力・学習状況調査やNRT等の分析を生かした指導改善の充実
- 学習支援ソフト等の効果的な利活用研究
- 教育センター研究委員によるICT機器利活用研究の推進

徳
知 体

教職員の力量向上

- 指導主事による学校訪問支援
- 子どもがICT機器を効果的に利活用できるようにするための研修の充実

力量

安全安心な学校づくりの推進

- 外部支援者との連携の充実

安心

GIGAスクール構想の推進

- ICTの環境整備とサポート体制の充実
- 不登校生が教室以外の居場所で学習を行える環境づくりと支援体制の充実

ギガ

学校間の連携、地域・家庭・事業所との協働と分担

- 長野市コミュニティスクール事業の推進

協働

IV 「協働」を通じた「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」に向けて

教育を取り巻く社会的背景の変化、近年の自然災害や新型コロナウイルス感染症の拡大など、予測困難な時代が到来しています。このような中、家庭、地域、学校など各主体が個々に活動するだけでは課題解決を行うことが困難な状況にあります。立場や見解の相違を前提としながら、多様な主体と協働し、「誰一人取り残すことなく」学び支え合う、持続可能な社会を創っていくことが求められます。第三次教育振興基本計画では、「協働」をキーワードとした取組を推進することで、「明日を拓く深く豊かな人間性の実現」を目指していきます。

「協働」をキーワードとした取組の具体

- ① 大学や高等教育機関との連携を図り、多様な学びの機会の充実
- ② 企業と連携した教育環境の充実
- ③ 部活動の地域移行の推進
- ④ 地域や民間団体、諸機関との連携を図り、社会的自立に向けた登校支援の充実